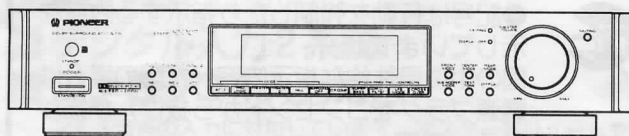


ドルビーサラウンド AC-3 &
プロロジックプロセッサー

SP-DO7



このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書を本機ご利用の前に最後までお読みください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。

お読みになった後は「保証書」、「サービス窓口・ご相談窓口」と一緒に保管してください。使用中にわからないことや不具合が生じたとき、きっとお役にたちます。

安全上のご注意	2
特長	3
ご使用前に	3
取扱い上の注意	4
ブロックダイアグラム	4
サラウンド効果とSFC（サウンドフィールド コントロール）効果について	5
スピーカーの設置	7
接続のしかた	8
各部の名称と働き	12
後面	12
前面	13
表示部	15
リモコン	16
再生前の準備操作	17
1 スピーカーモードを設定する	17
2 組合せる機器を設定する	18
3 レベル、バランスを設定する	18
4 ディレイタイムの調整	19
操作のしかた	20
ドルビーサラウンドAC-3のソフトを再生する	20
ドルビーサラウンドのソフトを再生する	21
ドルビーサラウンド以外のステレオソースをSFCで再生する	22
故障？ ちょっと調べてください	23
アフターサービス	25
仕様	26

準備・接続

操作

故障？

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

安全上のご注意

警告

【異常時の処置】

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



プラグを抜け



- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



プラグを抜け



- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



プラグを抜け



特長

- 「ドルビーAC-3」の「モノからディスクリート5.1chまで」の再生ができます。
- ドルビープロロジックサラウンド再生ができます。
- サウンドフィールドコントロール(SFC)

3種類のSFC効果が楽しめます。

- シアター1 : 映画館の臨場感を楽しむとき。
- シアター2 : シアター1よりもソフトな音質で楽しむとき。
- ホール : コンサートホールの臨場感を楽しむとき。

■ その他、次の機能があります。

- ダイナミックレンジコンプレッション

ドルビーサラウンドAC-3のオリジナル信号に、ダイナミックレンジを圧縮する信号が入っている場合に、再生するときにダイナミックレンジを圧縮して低いボリューム位置の場合に聞きやすくする機能です。

- 低域を強調するスーパーバス

■ デジタル入力2系統

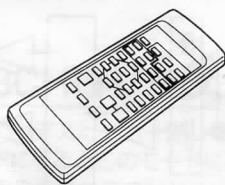
■ アナログ3-1入力対応

マルチ音声の入力に対応しています。マスターボリュームやバランス等のコントロールができます。

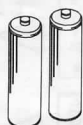
ご使用の前に

付属品の確認

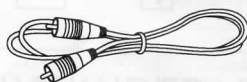
- リモコン



- 単4形乾電池(R03) 2本



- AC-3/RF用コード 1本



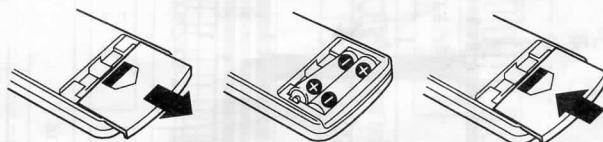
- 取扱説明書

- 保証書

- サービス窓口・ご相談窓口

電池の入れかた

1. 裏側のふたをあける。
2. (+) (-) の向きに注意して、電池をはめ込む。
3. ふたをしめる。



⚠ 注意

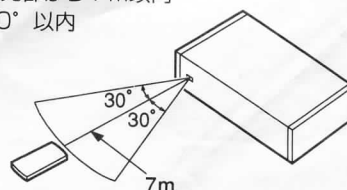
乾電池を誤って使用すると液漏れや破裂などの危険があります。次の点についてご注意ください（電池の注意事項もよく見てください。）

- 乾電池のプラス(+)とマイナス(-)の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間(1か月以上)使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。

リモコンの操作可能範囲

距離：前面受光部から7m以内

角度：左右30°以内



取扱い上の注意

設置について

高温・多湿を避けて、風通しのよい場所へ設置してください。
次のような場所には置かないでください。

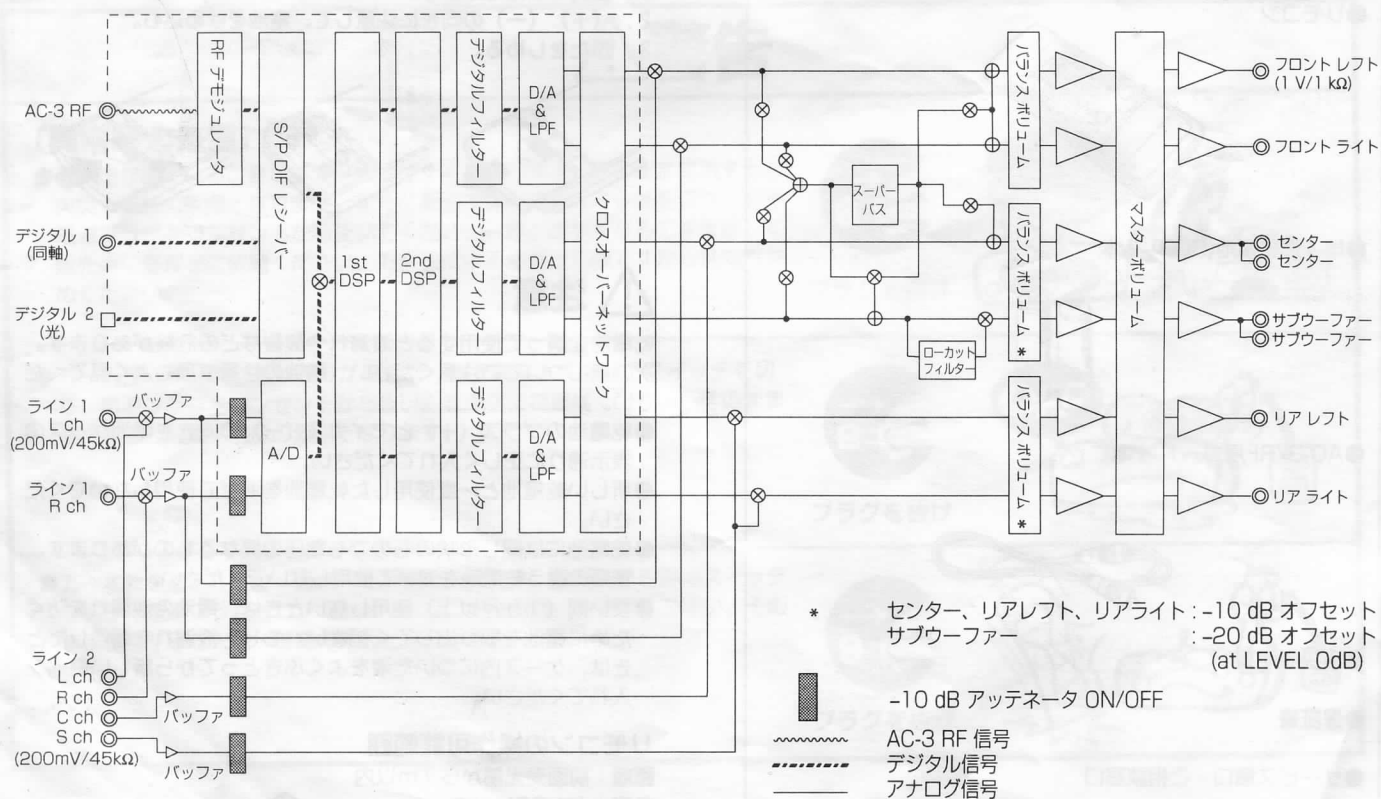
- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ほこりの多い所
- 油煙、蒸気、熱などがあたる所（台所など）

結露について

本機を冷え切った状態のまま暖かい室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりしますと、動作部に露が生じ（結露）、本機の性能を十分に発揮できなくなることがあります。

このような場合には1時間ほど放置するか、徐々に室温を上げてから使用してください。

ブロックダイアグラム



サラウンド効果とSFC (サウンドフィールドコントロール) 効果について

本機は臨場感と広がり感をもった音場を作り出すサラウンドプロセッサーです。

3つのサウンドフィールドモード

演奏会場や映画館の音は、空間による音の共鳴、天井や壁の反射音などが違った方向や時間経過で耳に届きます。それらが組合わさって1つの音場が作り出されています。

本機では音場感を形成する壁や床の反射音、音源からの距離などの要素をコンピューターシミュレーションによって解析し、DSP (デジタルシグナルプロセッサー) を使って音場を作り出します。この処理のことをS.F.C (サウンドフィールドコントロール) と呼んでいます。

シアター1 (THEATER 1) :

映画館での音の迫力や雰囲気を再現します。


シアター2 (THEATER 2) :

シアター1に比べて、ソフトな音質となります。

ホール (HALL) :

コンサートホールをシミュレートした音場を再現します。

ドルビープロロジックサラウンド

映画・音楽ソース (特に  DOLBY SURROUND マークのある映画ソフト) の場合にこの位置にします。

ドルビープロロジックサラウンドは信号の大きさと方向を連続的に検知し、不要なクロストークを除去します。それにより、音源の位置が明瞭になり自然な音の移動が再現できるため、臨場感や広大な音場感が楽しめます。

ドルビー3CHロジック

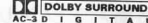
スピーカー設定でリアスピーカー無しを選択してドルビープロロジックサラウンドにするとこのモードになります。

リアスピーカー用の信号をフロントスピーカーに加えることで、フロントの3CH (フロント左、右スピーカー、センタースピーカー) で、通常のステレオ再生に比べて、より臨場感や広がり感を持った音場再生が楽しめます。

ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

ドルビー、DOLBY、AC-3、PRO LOGIC及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。

ドルビーサラウンドAC-3

 DOLBY SURROUND AC-3 DIGITAL マークの付いた映画や音楽のレーザーディスクのソフトを楽しむモードです。ドルビーサラウンドAC-3の再生可能なレーザーディスクプレーヤーのAC-3 RF出力を本機のAC-3 RF入力へ接続する必要があります。

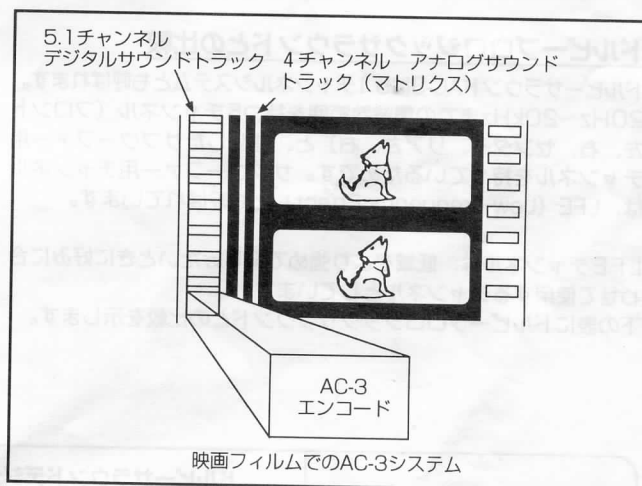
ドルビーサラウンドAC-3とは、映画館用サラウンドシステム (Surround Digital) の6チャンネル分の音声を、映画フィルムにデジタルトラックに記録する圧縮フォーマットです。レーザーディスクでは、AC-3で圧縮されたデジタルデータを従来のアナログチャンネルが記録されていた部分に記録します。

6チャンネルのうちのサブウーファー用のチャンネルは、低域のみであり、メインチャンネルよりも周波数帯域が狭いため、5.1チャンネルと表現しています。

ドルビーサラウンドAC-3について

ドルビーサラウンドAC-3は、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続して発展してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。

このシステムは、映画フィルム中にアナログ音声をも記録できるため、アナログ音声システムのための映画館でも支障なく上映できる方式となっています。



1992年にドルビーステレオデジタルを使用した映画は、約3年間で300以上制作され、現在も続々と増え続けています。

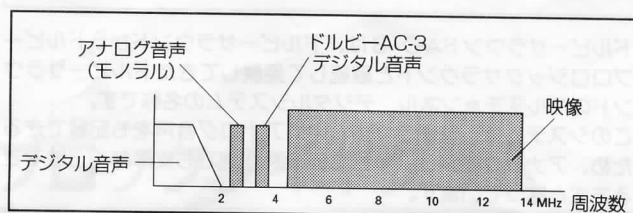
コンパクトディスクやレーザーディスクのデジタル音声では、元のアナログ音声の波形をサンプリングするのに16ビットを使用し、毎秒44,100回サンプリングします。しかし、この方法ではマルチチャンネルシステムには記録信号のデータ量が膨大なものになってしまうため、全体のデータ量を削減するものとして、ドルビーAC-3が使われることになります。

音声信号を表現する場合には、使用するビットが少ない程、音質の低下は避けられません。ドルビーAC-3では、音質を維持するために、人間の聴覚特性に基づいたマスキング技術とデジタルフィルタリング技術を使用して聴感上の音質の低下を防いでいます。

レーザーディスクフォーマット

レーザーディスクはすでに数多く販売されています。従ってレーザーディスクの中に異なるフォーマットの音声信号を記録することは、すでに存在するものとの互換性が重要な事柄でした。ドルビーAC-3では、すでに販売されているディスクやプレーヤーとの互換性を維持するため、アナログ音声の片チャンネルを使って信号を記録することとしています。

下の図に示すように、ドルビーAC-3のディスクでは、デジタル音声は従来通りに再生できます。また、アナログ音声は、ドルビーAC-3の信号を入れていない方のチャンネルをモノラル音声にして、アナログ音声の再生も楽しめるようにしています。



ドルビープロロジックサラウンドとの比較

ドルビーサラウンドAC-3は5.1チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz～20kHzまでの周波数範囲を持つ5チャンネル（フロント左、右、センター、リア左、右）と、独立したサブウーファー用チャンネルを持っているためです。サブウーファー用チャンネルは、LFE（Low Frequency Effect）とも呼ばれています。

LFEチャンネルは、低域をより強めて楽しみたいときに好みに合わせて使用するチャンネルとしています。

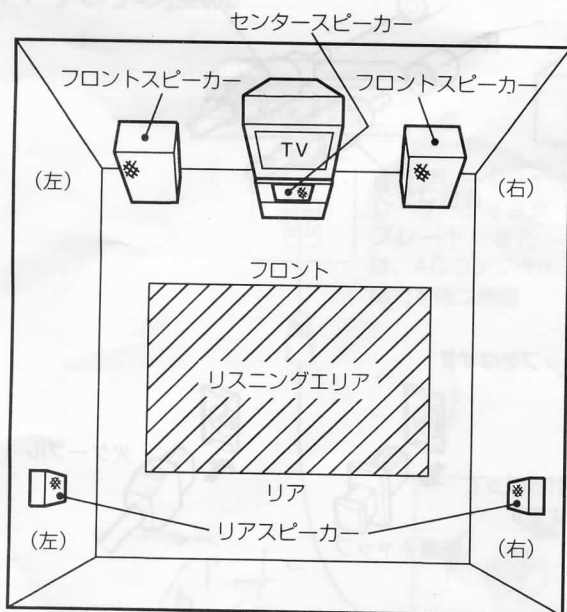
下の表にドルビープロロジックサラウンドとの比較を示します。

	ドルビーサラウンドデジタル (AC-3)	ドルビープロロジックサラウンド
記録チャンネル数	5.1チャンネル (最大)	2チャンネル
再生チャンネル数	5.1チャンネル (最大)	4チャンネル
再生チャンネル構成	フロント左、右、センター、リア左、右、サブウーファー	フロント左、右、センター、リア
音声処理	デジタルディスクリート処理	アナログマトリクス処理
サラウンド(リア)の高域再生限界	20,000Hz	7,000Hz
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 5.1チャンネル完全独立 ● 高ダイナミックレンジ ● 定位、位相特性にすぐれ、音場再現性が高度 	

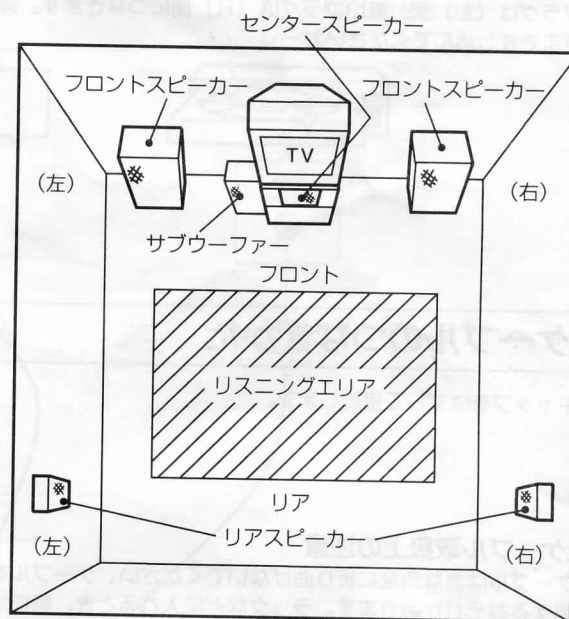
スピーカーの設置

サラウンド効果を最大限に発揮させるため、図のようにスピーカーを設置してください。

【標準的な設置例】



【発展的な設置例】



リスニングルームについて

音の反射が強すぎる部屋では、サラウンド効果が十分に得られません。その場合は次のようにして反射をやわらげてください。

- 家具の位置を変えて、不要な反射音が出ないようにする。
- 壁面やドアなど固くて音が反射しやすい所に厚手のウールカーテンなどをひいて、反射しにくくする。

ご注意

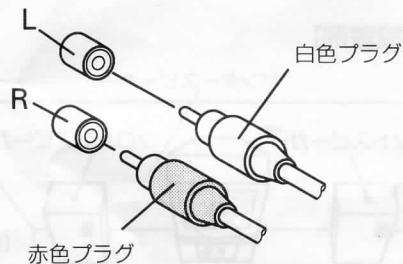
- テレビの近くに設置するスピーカーは防磁型のものをお使いください。
- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- リア（後部）スピーカーは、視聴するときの位置よりやや高めに設置すると効果的です。
- 1台のみのセンタースピーカーをテレビの横に置くと、テレビの映像と音声の位置がズレて不自然になります。左右の中心から音が出るようにテレビの上方などに設置してください。

接続のしかた

オーディオ用コードのつなぎかた

赤、白ピンプラグ付きコードを使用します。

白いプラグは（L）側、赤いプラグは（R）側につなぎます。必ず、奥まで差し込んでください。

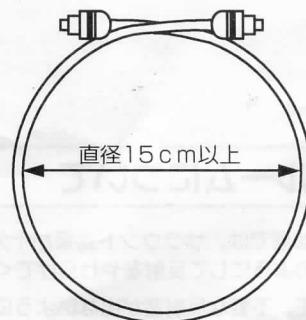
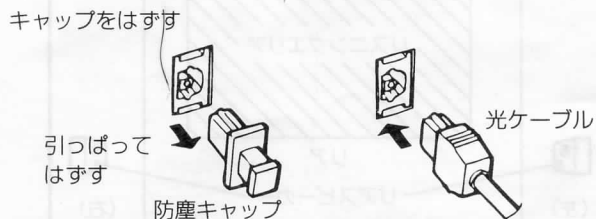


光ケーブルのつなぎかた

防塵キャップをはずして接続します。

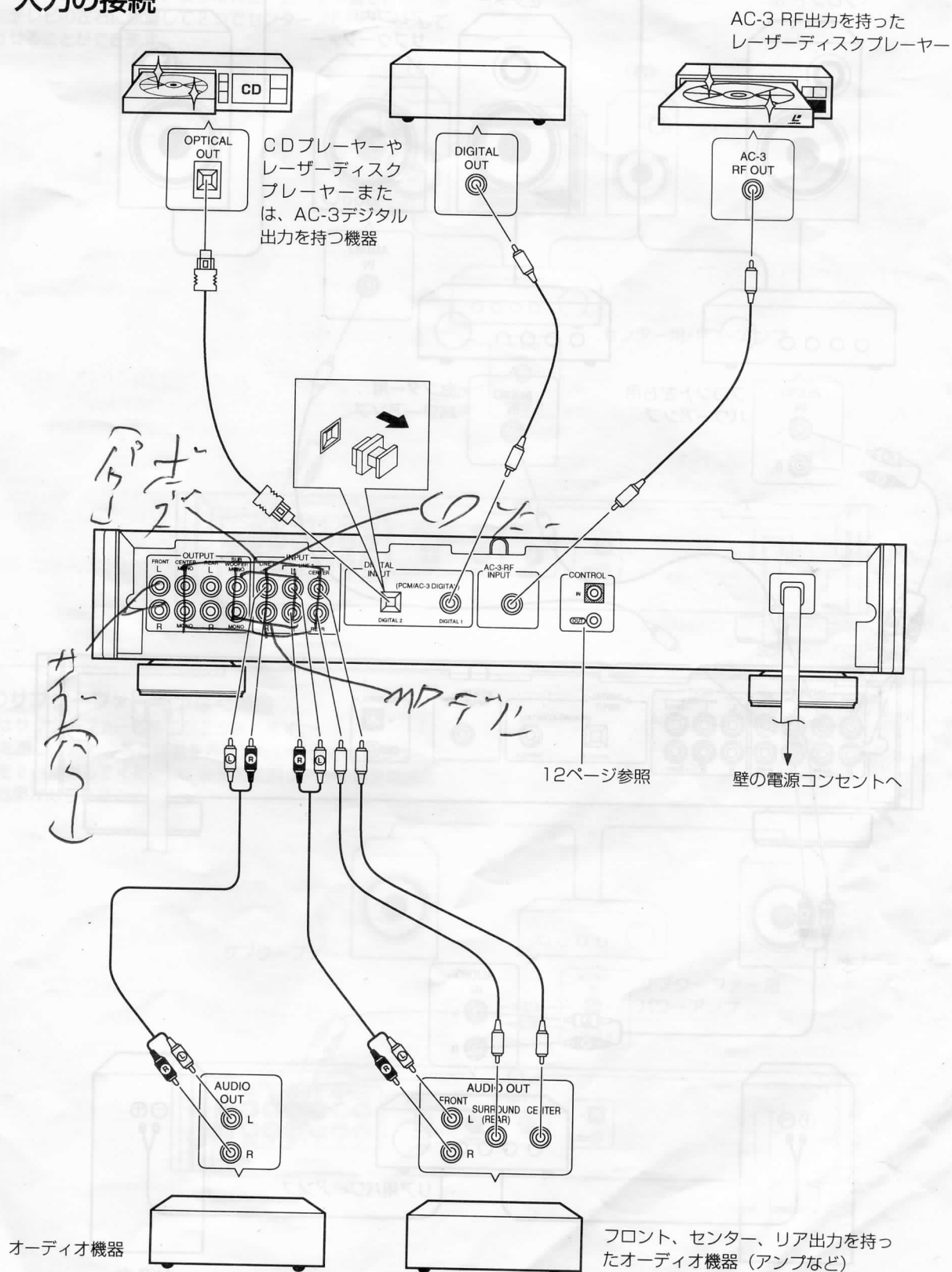
●光ケーブル取扱上の注意

- ① 光ケーブルは急な角度に折り曲げないでください。ケーブルを破損するおそれがあります。ラックなどに入れるとき、特に注意してください。輪にして保管するときは、直径が15cm以上になるようにしてください。
- ② 接続するときは奥まで確実に差し込み、不完全な接続にならないよう注意してください。
- ③ 光ケーブルは、長さ3m以下のものを使用してください。
- ④ 光ケーブルのプラグに傷やほこりがつかないように注意してください。ほこりが付着したときは、やわらかい布で拭いてから接続してください。
- ⑤ 光ケーブルを接続しないときは、本機の光端子(OPTICAL)に防塵キャップを差し込み、ほこりが付着しないようにしてください。
- ⑥ 防塵キャップは紛失しないように大切に保管してください。

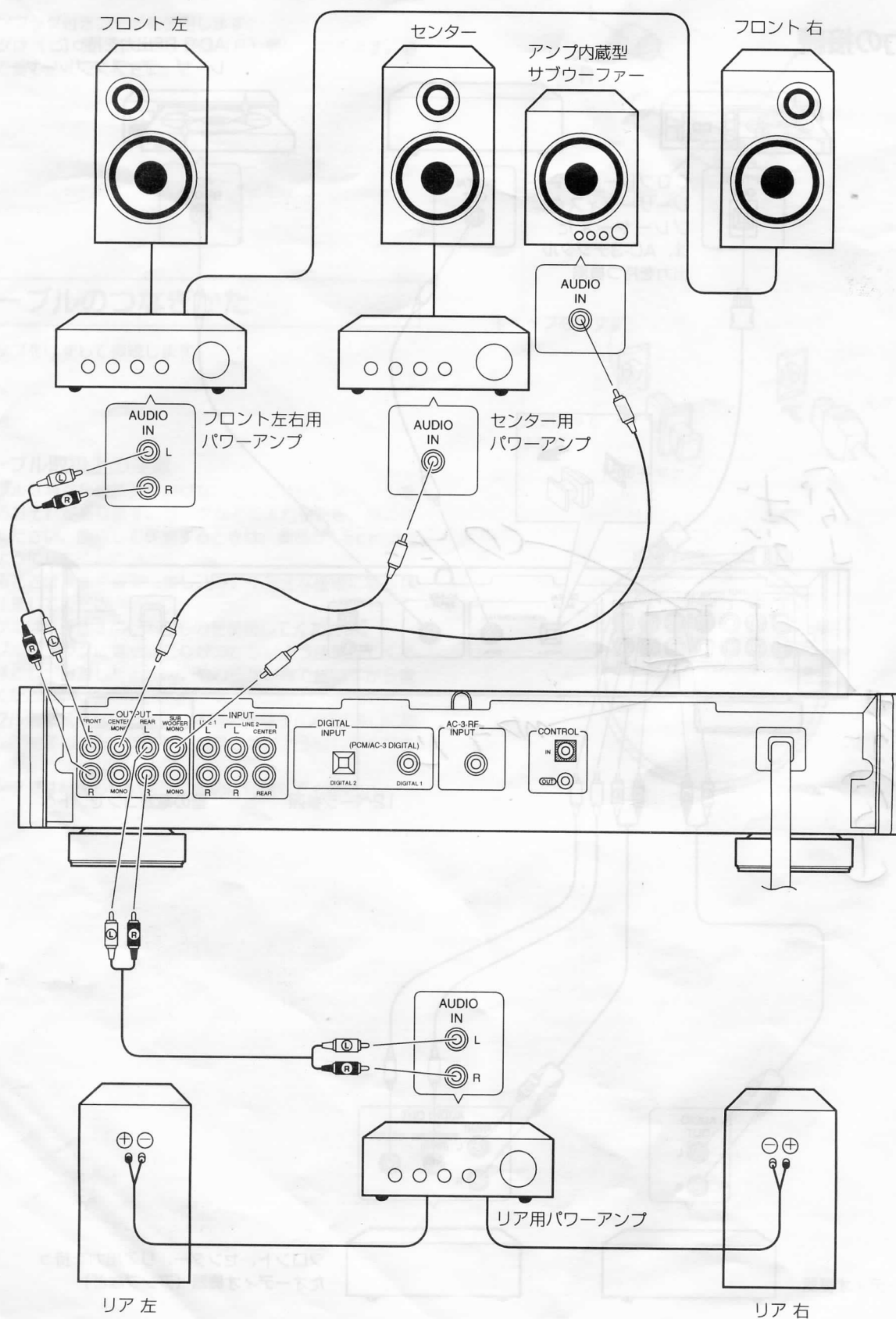


機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

1. 入力の接続

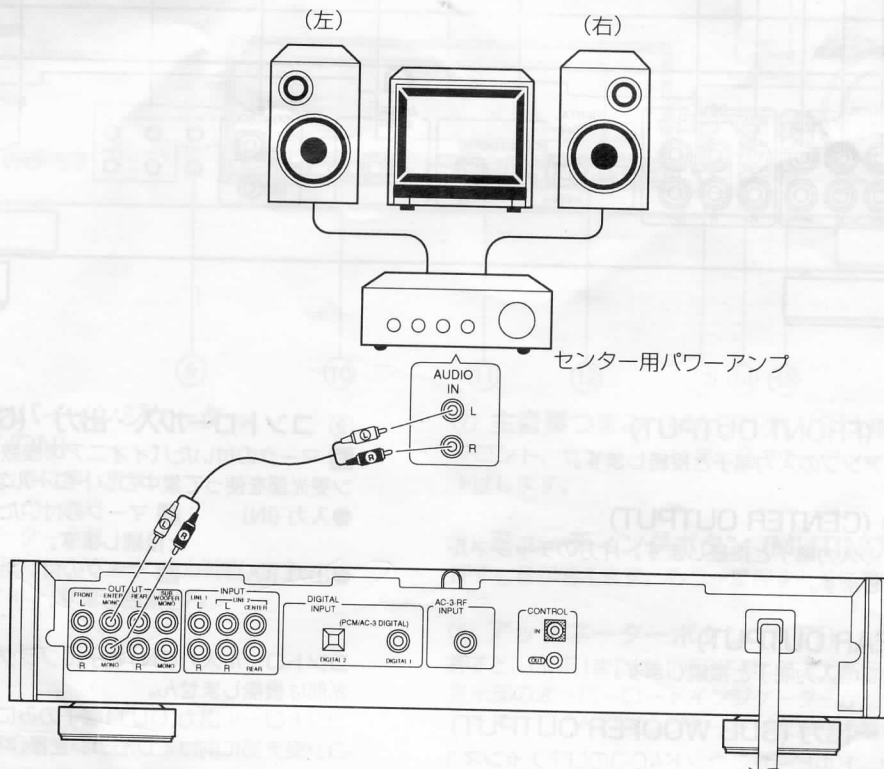


2. 出力の接続



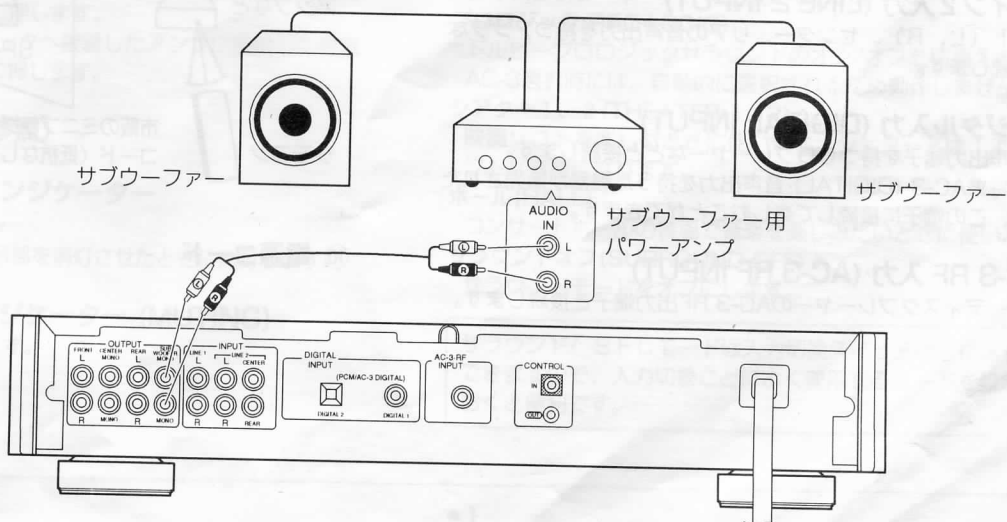
2 台のセンタースピーカーを接続してデュアルセンタースピーカーとする場合

センター出力端子が 2 つありますので、2 台のスピーカーを接続できます。テレビの上、下、後ろにスピーカーを設置できない場合に、テレビの左右に設置して 2 つでセンタースピーカーとして機能させることができます。



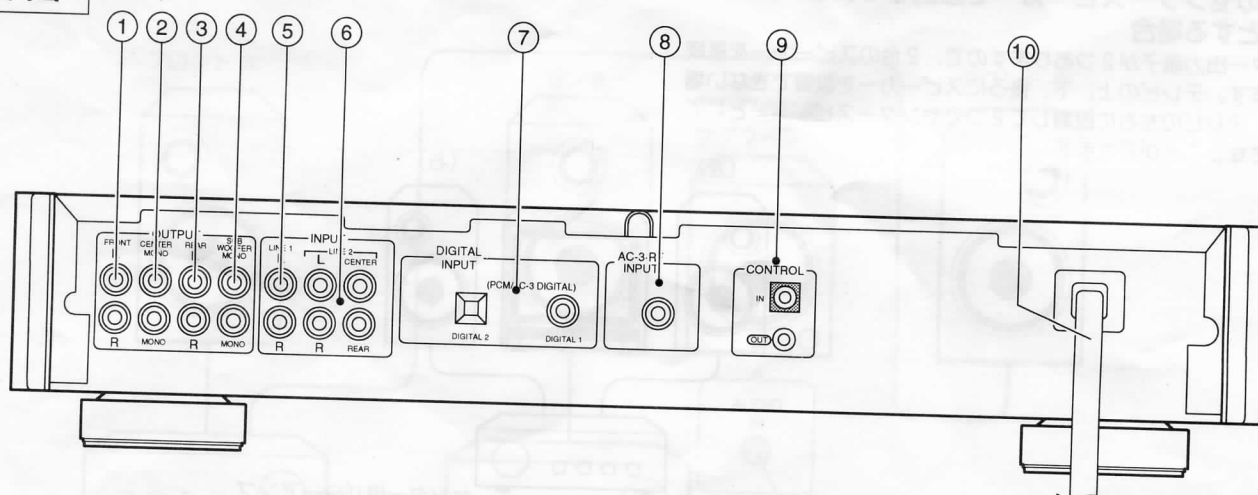
2 台のサブウーファーをつなぐ場合

本機にはサブウーファー用端子が 2 つあります。重低音を増し、迫力のある音場を再現したい場合にはサブウーファーを 2 台接続してください。映画の戦闘シーンや爆発場面に大きな効果があります。



各部の名称と働き

後面



① フロント出力 (FRONT OUTPUT)

フロント用ステレオアンプの入力端子と接続します。

② センター出力 (CENTER OUTPUT)

センター用のアンプの入力端子と接続します。片方のチャンネルだけを使うこともできます。

③ リア出力 (REAR OUTPUT)

リア用ステレオアンプの入力端子と接続します。

④ サブウーファー出力 (SUB WOOFER OUTPUT)

低音を増したい時や、ドルビーサラウンドAC-3のLFEチャンネルを再生したい場合にサブウーファー用のアンプに接続します。

⑤ ライン1入力 (LINE 1 INPUT)

ステレオアンプの音声出力端子（アダプター用出力やテープデッキの録音出力など）と接続します。

⑥ ライン2入力 (LINE 2 INPUT)

フロント（L、R）、センター、リアの音声出力を持つアンプなどと接続します。

⑦ デジタル入力 (DIGITAL INPUT)

デジタル出力端子を持つCDプレーヤーなどと接続します。また、将来AC-3（DIGITAL）音声出力を持った機器が販売された場合に、この端子に接続して楽しむことができます。

⑧ AC-3 RF 入力 (AC-3 RF INPUT)

レーザーディスクプレーヤーのAC-3 RF出力端子と接続します。

⑨ コントロール入・出力 (CONTROL IN, OUT)

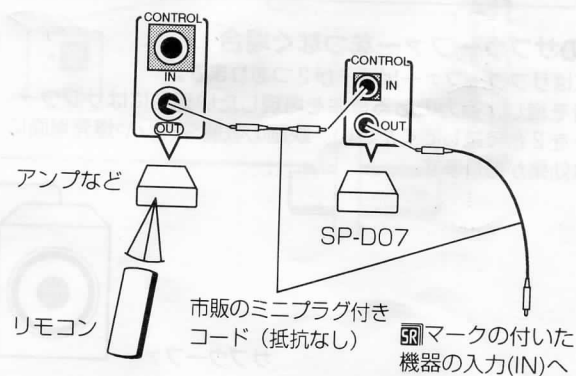
SRマークの付いたパイオニアの複数の機器を1つの機器のリモコン受光部を使って集中コントロールするための端子です。

●入力 (IN) : SRマークの付いた機器のコントロール出力端子と接続します。

●出力 (OUT) : SRマークの付いた機器のコントロール入力端子と接続します。

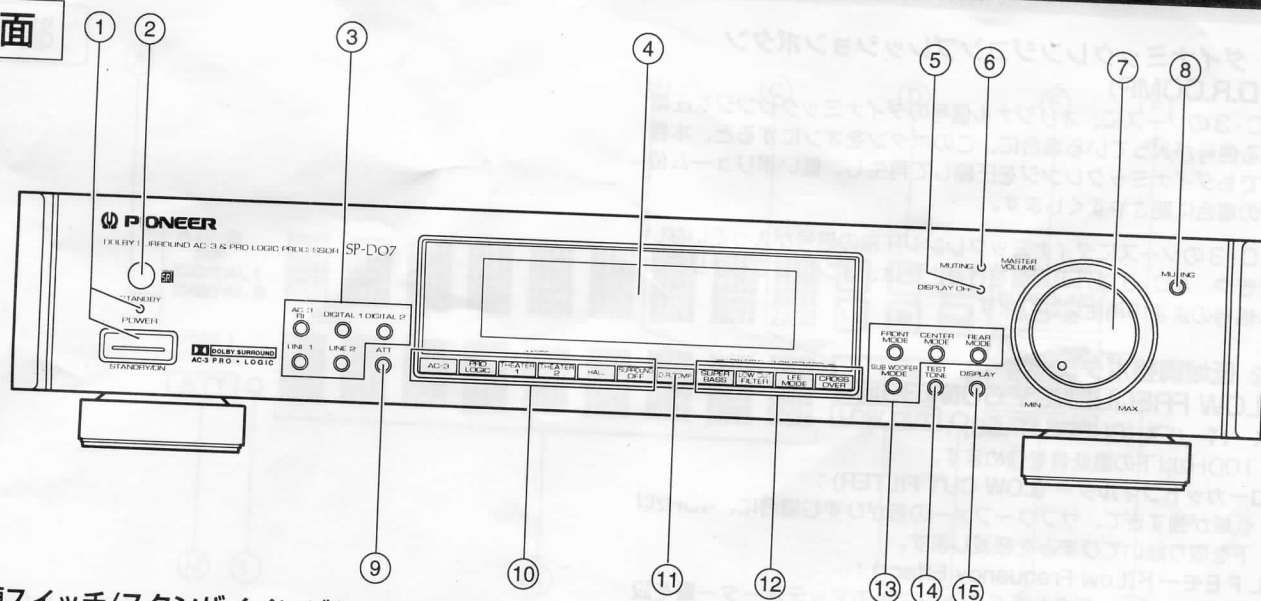
コントロール入力(IN)端子にプラグを接続した機器のリモコン受光部は機能しません。

コントロール出力(OUT)端子のみにプラグを接続した機器のリモコン受光部に向けてリモコンを操作してください。



⑩ 電源コード

前面

① 電源スイッチ/スタンバイインジケータ
(POWER STANDBY/ON)

電源をオン/スタンバイするときに押します。

●オン インジケータ消灯

●スタンバイ インジケータ点灯

電源をオンした後、約5秒間はインジケータが点滅します。
その間は音声出力にミュートがかかります。

② リモコン受光部

③ 入力切換ボタン

AC-3 RF : AC-3 RF INPUT ジャックに接続したLDプレーヤーでAC-3 (Dolby Surround Digital) 対応のディスク再生をする時に押します。

DIGITAL 1 : DIGITAL 1 INPUT へ同軸ケーブル接続した機器を再生する時に押します。

DIGITAL 2 : DIGITAL 2 INPUT へ光ファイバーケーブルで接続した機器を再生する時に押します。

LINE 1 : LINE 1 ジャックへ接続したアンプに接続した機器を再生する時に押します。

LINE 2 : LINE 2 ジャックへ接続したアンプに接続した機器を再生する時に押します。

④ 表示部 (15ページ参照)

⑤ ディスプレイオフインジケータ
(DISPLAY OFF)

ディスプレイボタン(15)で表示部を消灯させたときに点灯します。

⑥ ミューティングインジケータ (MUTING)

ミュート中に点滅します。

⑦ 主音量つまみ (MASTER VOLUME)

フロント、センター、リア、サブウーファの音量を同時に上げ下げします。

⑧ ミューティングボタン (MUTING)

押すと音が消えます。もう一度押すと元に戻ります。

⑨ アッテネーターボタン (ATT)

押すと、LINE 1またはLINE 2に対して入力感度が10dB減衰します。表示部のオーバーロードインジケータが点灯したら、このボタンを押して、ATTインジケータを点灯させてください。

⑩ サラウンド/SFCモードボタン

AC-3 :

入力切換ボタンでDIGITAL 1または2を選んだときにのみ動作します。

このボタンを押すと、AC-3デジタル音声出力のある機器*1と、他のデジタル音声出力を持つ機器 (CDプレーヤーやレーザーディスクプレーヤー) との切換えを行います。

プロロジック (PRO LOGIC) :

ドルビープロロジックサラウンドのオン/オフを切換えます。

AC-3選択時には、自動的に選択されるため動作しません。

シアター 1、2 (THEATER 1、2) :

映画ソフトを楽しむときに使います。シアター 2は1よりもソフトな音質になります。

ホール (HALL) :

コンサートホールの音場で音楽を楽しみたいときに使います。

サラウンドオフ (SURROUND OFF) :

サラウンドモードをオフにします。

サラウンド/ SFCモードは入力切換スイッチごとにメモリーできますので、入力切換ごとによく使用するモードを設定しておくとう便利です。

*1

将来、AC-3 デジタル出力を持つ機器が販売された時に、本機へ接続することを想定した場合です。

⑪ ダイナミックレンジコンプレッションボタン (D.R.COMP)

AC-3のソースに、オリジナル信号のダイナミックレンジを圧縮する信号が入っている場合に、このボタンをオンにすると、本機側でもダイナミックレンジを圧縮して再生し、低いボリューム位置の場合に聞きやすくします。

AC-3のソースにダイナミックレンジ圧縮の信号が入っていないときや、AC-3以外の再生を行うときは、オンにしてもオリジナル信号のままの再生になります。

⑫ 低域調整ボタン (LOW FREQUENCY CONTROL)

スーパーバス (SUPER BASS) :

100Hz以下の重低音を強めます。

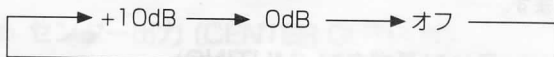
ローカットフィルター (LOW CUT FILTER) :

低域が強すぎて、サブウーファーの音がひずむ場合に、40Hz以下を取り除いてひずみを軽減します。

L F Eモード (Low Frequency Effect) :

サブウーファー用のL F Eチャンネルのアッテネーター量を設定します。

押すたびに次のように切換わります。



標準推奨レベルは+10dBです。+10dBを選択したときには、フロントの3つのスピーカーの出力を合わせたものと同等の許容入力が必要でサブウーファーに必要です。そのため、許容入力以上の入力があった場合には音がひずむことがあります。

クロスオーバー (CROSSOVER)*2 :

クロスオーバー周波数の設定に使用します。

押すたびに次のように切換わります。



⑬ スピーカー設定ボタン

接続するスピーカーの大きさや有/無を設定します。

⑭ テストトーンボタン (TEST TONE)

サブウーファーを除く各チャンネルの音量レベル調整用の音声 (テストトーン) のオン/オフをします。LINE2を除くサラウンドオフ時には出力されません。

⑮ ディスプレイボタン (DISPLAY)

表示部の表示/消灯を選択します。

消灯している時はディスプレイオフインジケータ (⑤) が点灯します。

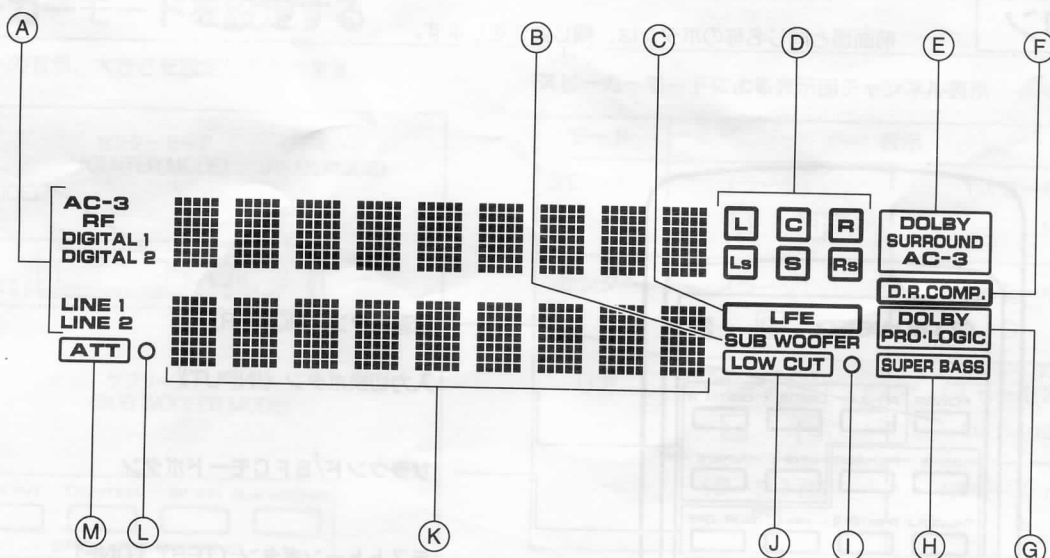
*2

クロスオーバー

スピーカーが小さいために低域まで再生できない場合やサブウーファーを接続していない場合に、そのチャンネルのスピーカーでは再生できない低域 (80~100Hz以下) や、サブウーファー用の信号等を一定の規則に従って、低域まで再生できるスピーカー

を接続している他のチャンネルに、自動的に振り分ける機能です。クロスオーバーボタンにより他のチャンネルに振り分ける低域を何Hz以下にするかを選択できます。

表示部



① 入力切換表示

入力切換スイッチで選んだ入力ソースが点灯します。

② サブウーファースインジケータ
(SUB WOOFER)

スピーカーモード設定時に点灯します。

サブウーファースモードを“USE”または“Mode 1、2 (AC-3)”に設定したとき点灯します。

③ L F Eインジケータ*3

ドルビーサラウンドAC-3 選択時に、ソフトにL F Eチャンネルが設定されている時に点灯します。L F Eの信号を再生中は ☐ が点灯し、L F Eの信号が無い時は ☐ が消えます。

④ ドルビーサラウンドAC-3チャンネル表示*3

●ドルビーサラウンドAC-3動作時：

ソフトに設定されたオーディオチャンネルを表示します。

●スピーカーモード設定時：

各スピーカーの太、小、無しを表現します。

●テストトーン時：

テストトーンを出力するチャンネルおよび出力しているチャンネルを示します。

⑤ ドルビーサラウンドAC-3インジケータ
(DOLBY SURROUND AC-3)

ドルビーサラウンドAC-3 で再生中に、オーディオフォーマットがサラウンドチャンネルを含んでいる時に点灯します。

⑥ ダイナミックレンジコンプレッションインジケータ
(D.R. COMP)⑦ ドルビープロロジックインジケータ
(DOLBY PRO LOGIC)

ドルビーサラウンドAC-3 で再生中に、ドルビープロロジックサラウンドのエンコードされている再生ソースである場合に点灯します。

⑧ スーパーバスインジケータ
(SUPER BASS)

⑨ L F Eモードインジケータ

L F Eモードボタンで、0dBまたはOFFを選択すると点灯します。標準推奨レベルの+10dB時は消灯します。

⑩ ローカットフィルターインジケータ
(LOW CUT)

⑪ 数字・文字表示部

⑫ オーバーロードインジケータ

LINE1またはLINE2の入力信号が大きすぎる時に点灯します。そのまま再生を続けると、音がひずみますので、このインジケータが点灯した時は、アッテネーターボタン (ATT) を押し、ATTインジケータを点灯させてください。

⑬ アッテネーターインジケータ (ATT)

*3

ドルビーサラウンドAC-3のソフトに記録され、送られてくる各チャンネルの有/無やサンプリング周波数などの情報 (オーディオフォーマット) により、自動的にオン/オフします。これらのインジケータをオーディオフォーマットインジケータと呼びます。

リモコン

前面部と同じ名称のボタンは、同じ働きをします。



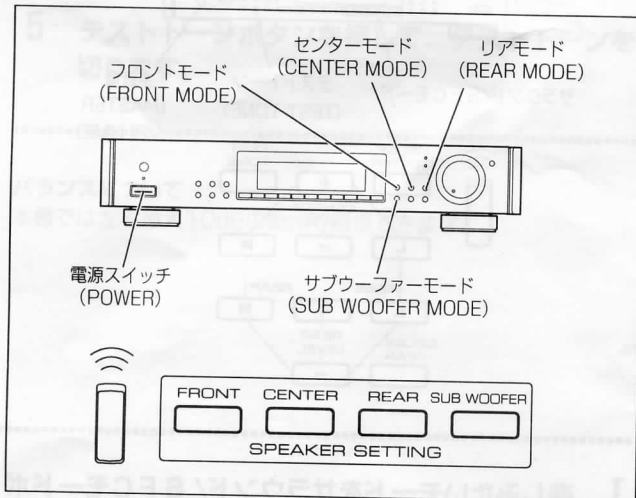
再生前の準備操作



マークはリモコンでの操作です。

1 スピーカーモードを設定する

接続したスピーカーの有無、大きさを設定しておきます。



1 電源を入れます。

アンプの電源スイッチ連動コンセントへ電源コードをつないでいるときは、アンプの電源も入れてください。

2 スピーカー設定ボタンで、スピーカーの有/無、大きさを設定します。

ラージ (LARGE) : 100Hz以下の再生可能なスピーカーを使うとき。

スモール (SMALL) : 100Hz以下が再生できない小型スピーカーを使うとき。

ナン (NONE) : スピーカーを接続しないとき。

フロントモード
(FRONT MODE)

ラージ ↔ スモール

センターモード
(CENTER MODE)

→ ラージ → スモール → ナン

リアモード
(REAR MODE)

→ ラージ (2台) → スモール (2台) →
ナン ← スモール (1台) ← ラージ (1台) →

スピーカーモードによる表示部チャンネル表示

モード	表示	
フロント	(ラージ)	(スモール)
	L R	L R
センター	(ラージ)	(スモール)
	C	C
リア	(ラージ 2 台)	(スモール 2 台)
	Ls Rs	Ls Rs
	(ラージ 1 台)	(スモール 1 台)
	S	S

サブウーファーモード
(SUB WOOFER MODE)

①ドルビーサラウンドAC-3時:

→ ナン → モード1 → モード2

モード1 : サブウーファー出力のみ

モード2 : サブウーファー出力にフロントL、R、Cの低域を加えた出力

②他のサラウンド/SF Cモード時:

ユーズ (USE) ↔ ナン

ユーズ : フロントL、R、Cの低域

ドルビープロロジックサラウンド時のセンターモード (NORMAL、WIDE、PHANTOM) はスピーカーモードの設定で行います。

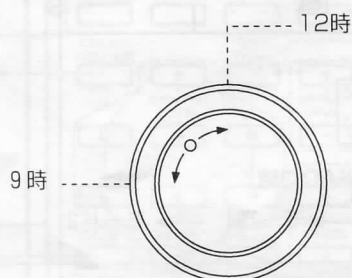
フロント	センター	
ラージ	スモール	→ NORMAL (ノーマル)
ラージ	ラージ	→ WIDE (ワイド)
ラージ	ナン	→ PHANTOM (ファントム)

リアスピーカー無し (ナン) を選ぶとドルビー 3 C Hロジックの設定となります。

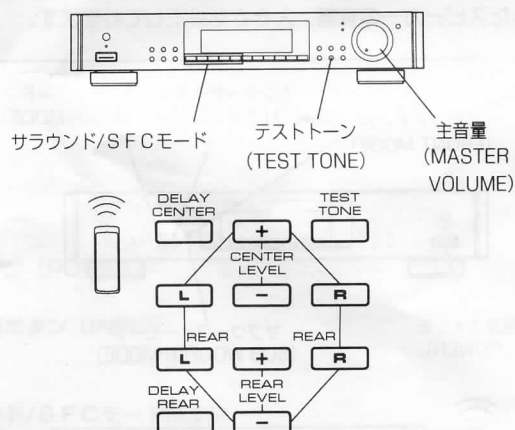
サラウンド/SF Cモードごとにサブウーファーモードがメモリーされます。モードごとによく使用するサブウーファーモードを設定しておく便利です。

2 組合せる機器を設定する

- 1 アンプや他の機器の電源を入れます。
- 2 本機の主音量つまみを左へいっぱいまで回します。
- 3 アンプとして、プリメインアンプなどのAUX / LINE入力端子を使用している場合、アンプの音量つまみを12時くらいの位置にします。
時計の9時から12時くらいの位置を目安にしてください。



3 レベル、バランスを設定する



- 1 楽しみたいモードをサラウンド/ SFCモードボタンで選びます。
- 2 テストトーン*4ボタンを押します。
- 3 主音量を上げます。
- 4 テストトーンを聞きながら、左右バランス、音量レベルを調整します。

リスニング位置で、テストトーンを聞きながら各スピーカーからの音量が同じになるように調整してください。

全体の左右バランス (MASTER BALANCE) :

- ☐ ... 右の音が大きすぎる時に押します。
- ☐ ... 左の音が大きすぎる時に押します。

リアの左右バランス (REAR BALANCE) :

- REAR ☐ ... 右の音が大きすぎる時に押します。
- REAR ☐ ... 左の音が大きすぎる時に押します。

センター音量レベル (CENTER LEVEL)

- CENTER LEVEL ☐ ... センタースピーカーの音が大きくなります。
- CENTER LEVEL ☐ ... センタースピーカーの音が小さくなります。

リア音量レベル (REAR LEVEL)

- REAR LEVEL ☐ ... リアスピーカーの音が大きくなります。
- REAR LEVEL ☐ ... リアスピーカーの音が小さくなります。

サブウーファーにはテストトーンの音は出ません。実際の再生音を聞きながらサブウーファーレベルボタン (+) (-) で調整してください。

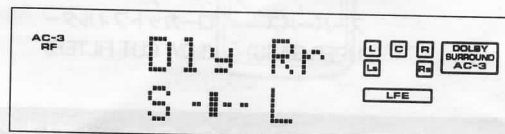
4 ディレイタイムの調整

スピーカーの配置により、リアスピーカー、センタースピーカーの遅延時間（ディレイタイム）を設定します。ディレイタイムはドルビーサラウンドAC-3またはドルビープロロジックサラウンド時に調整可能です。

（リアスピーカー）

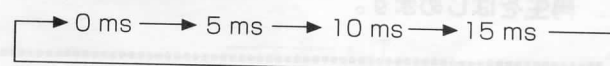


DELAY
REAR

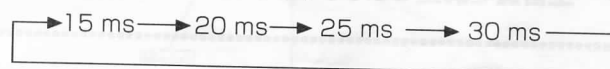


- 上図の位置が標準の値です。これはリスニング位置からフロントスピーカーまでの距離と、リアスピーカーまでの距離が同じ場合です。
- リアスピーカーまでの距離の方が近い場合はディレイタイムをL（Long）側へ、遠い場合はS（Short）側へ設定してください。

リアスピーカーのディレイタイム変化量
ドルビーサラウンドAC-3：



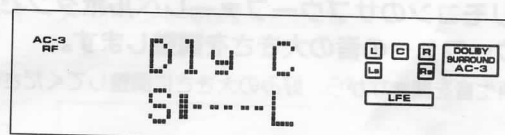
ドルビープロロジックサラウンド：



（センタースピーカー）



DELAY
CENTER



- フロントスピーカーの左右を広く設置している場合は、ディレイタイムをL（Long）側へ調整し、センタースピーカーと左右スピーカーが聴感上、同じ距離のところに聞こえる位置を探してください。

センタースピーカーのディレイタイム変化量



本機は、サラウンド/ SFCモード毎に、レベル、バランス、エフェクト、ディレイをメモリーします。各モードに対して、レベル、バランス、エフェクト、ディレイを設定することによって、好みの音場空間を作り出すことができます。

5 テストトーンボタンを押して、テストトーンを切ります。

バランスについて

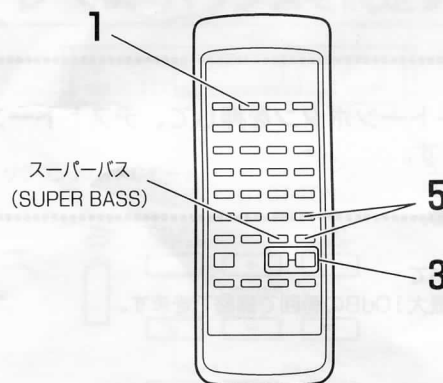
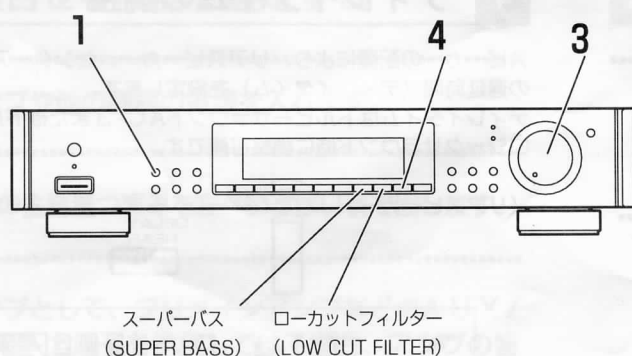
本機では左右最大10dBの範囲で調整できます。

*4 テストトーンについてのご注意

- スピーカー設定ボタンで、“ナン（NONE）”と設定したスピーカーからは音が出ません。
- テストトーンボタンはサラウンドオフの時は動作しません。（ただし、ライン2を除きます。）

操作のしかた

マークはリモコンでの操作です。



ドルビーサラウンドAC-3のソフトを再生する

(のマークの付いたソフトです。)

1 入力切換ボタンのAC-3 RFを押します。

2 再生をはじめます。

3 主音量を調整します。

4 LFEモードボタンでLFEチャンネルの強弱を設定します。

5 リモコンのサブウーファーレベルボタンでサブウーファーの音の大きさを調整します。

再生音を聞きながら、好みの大きさに調整してください。

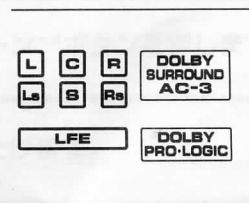


----- 大きくなります。
 SUB WOOFER LEVEL
 ----- 小さくなります。

【プログラムオーディオフォーマットインジケータ】

ソフトに設定されたオーディオチャンネルを表示部のインジケータで表示します。

LFEチャンネルが設定されているソフトではLFEも点灯しますが、信号の有無によって枠の表示が点灯、消灯します。



オーディオフォーマットの1つとして、ドルビープロロジックサラウンドの再生モードとなった場合はDOLBY PRO LOGICインジケータの点灯に変わり、DOLBY SURROUND AC-3は消灯します。

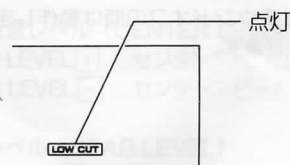
【低音の調整】

低音が弱い場合：

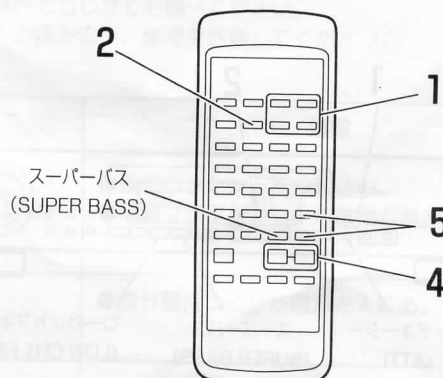
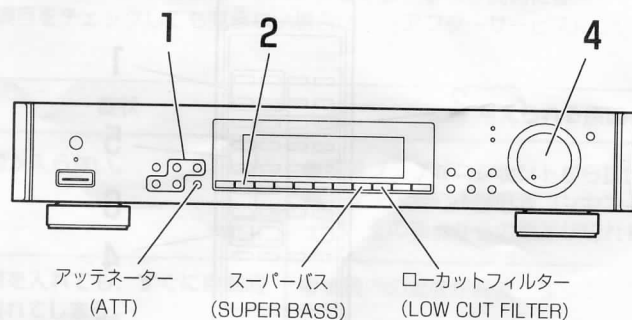
スーパーバスボタンをオンにしてください。

サブウーファーの音が強すぎて、ひずむ場合：

ローカットフィルターボタンを押してください。40Hz以下の低音をカットしてひずみを軽減します。



サラウンド再生にSFCの効果を加えることができます。
(22ページ参照)



ドルビーサラウンドのソフトを再生する

(DOLBY SURROUND のマークの付いたソフトです。)

1 入力切換ボタンで入力ソースを選びます。

本機の入力端子にアンプをつないでいる時は、アンプの入力切換で再生する機器を選択してください。

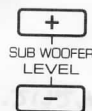
2 プロロジック*5ボタンを押します。

3 再生をはじめます。

4 主音量を調整します。

5 リモコンのサブウーファーレベルボタンでサブウーファーの音の大きさを調整します。

再生音を聞きながら、好みの大きさに調整してください。



----- 大きくなります。

----- 小さくなります。

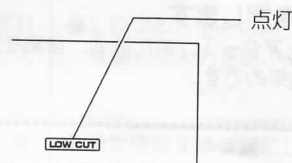
【低音の調整】

低音が弱い場合：

スーパーバスボタンをオンにしてください。

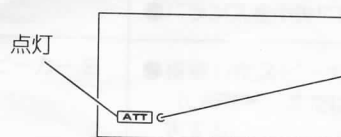
サブウーファーの音が強すぎて、ひずむ場合：

ローカットフィルターボタンを押してください。40Hz以下の低音をカットしてひずみを軽減します。



【入力切換でライン1または2を選んでいて、オーバーロードインジケータが点灯した場合】

アッテネーターボタンを押してください。

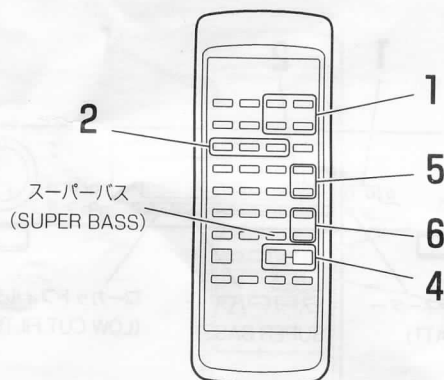
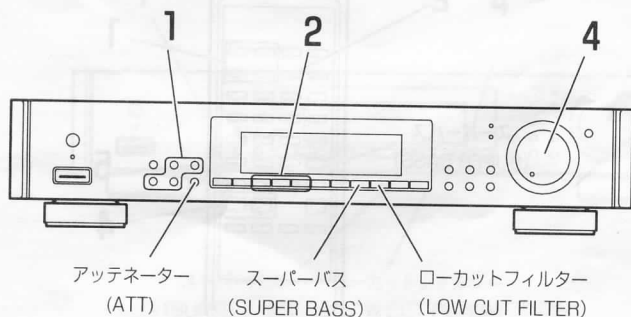


このインジケータが点灯したら、アッテネーターボタンを押す。

*5

ドルビーサラウンドAC-3を選んでいる時はドルビープロロジックサラウンドは自動的に選択されますので、プロロジックボタンは動作しません。

サラウンド再生にSFCの効果を加えることができます(22ページ参照)。



ドルビーサラウンド以外のステレオソースをSFCで再生する

1 入力切換ボタンで入力ソースを選びます。

本機の入力端子にアンプをつないでいる時は、アンプの入力切換で再生する機器を選択してください。

2 サラウンド/ SFCモードボタンのシアター 1、2 またはホールを押します。

映画を楽しむ時はシアター 1、または 2、音楽を楽しむ時はホールを選ぶと効果的です。

3 再生をはじめます。

4 主音量を調整します。

5 リモコンのエフェクトレベル調整ボタンで効果量を調整します。

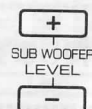


----- 効果が強まります。

----- 効果が弱まります。

6 リモコンのサブウーファーレベルボタンでサブウーファーの音の大きさを調整します。

再生音を聞きながら、好みの大きさに調整してください。



----- 大きくなります。

----- 小さくなります。

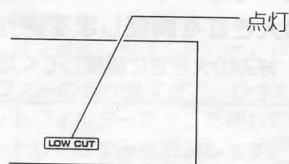
【低音の調整】

低音が弱い場合：

スーパーバスボタンをオンにしてください。

サブウーファーの音が強すぎて、ひずむ場合：

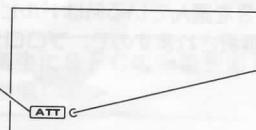
ローカットフィルターボタンを押してください。40Hz以下の低音をカットしてひずみを軽減します。



【入力切換でライン 1 または 2 を選んでいて、オーバーロードインジケーターが点灯した場合】

アッテネーターボタンを押してください。

点灯



このインジケーターが点灯したら、アッテネーターボタンを押す。

故障？ ちょっと調べてください

意外な操作ミスが故障とされています。故障かな？... と思ったら、症状に合わせて下の項目をチェックしてみてください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のステレオ製品および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。下の項目をチェックしても直らない場合は、「アフターサービスについて」の項をお読みの上、修理を依頼してください。

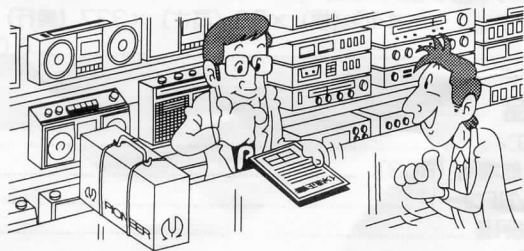
症状	考えられる原因	処置
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグがコンセントから抜けている。 ●アンプなどの予備電源コンセントにつないだ場合で、その機器からの電源が切れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●壁のコンセントに差し込む。 ●電源プラグをつないだ機器の電源を入れる。
電源を入れても、すぐに自動的に切れてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> ●本機内の温度が高温になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●数分間待ってから電源を入れる。
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●主音量が最小（MIN）になっている。 ●本機とアンプとの接続、アンプとスピーカーの接続をまちがえている。 ●接続コードが端子からはずれている。または差込み方が不完全。 ●接続端子や接続コードのプラグが汚れている。 ●アンプの音量、スピーカースイッチ、ミュートイング等の操作をまちがえている。 ●ミュートイングをオンにしている。 ●デジタル入力1または2を選択時、デジタル信号入力時にドルビーAC-3モードにしている。 ●ドルビーAC-3信号入力時にドルビーAC-3にしている。 ●LDプレーヤー再生時に、AC-3信号が記録されたディスクでないディスクを再生しているのに入力切替をAC-3/RFにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●主音量つまみを右に回して、音量を上げる。 ●接続を確認し、正しく接続し直す。 ●確実に差し込む。 ●汚れを拭き取って接続し直す。 ●アンプの取扱説明書を参照してください。 ●ミュートイングボタンを押してオフにする。 ●AC-3ボタンを押してドルビーAC-3以外にする。 ●ドルビーAC-3を選択する。 ●LDプレーヤーのAC-3/RF以外の音声出力を接続した入力を選ぶ。
音がひずむ。	<ul style="list-style-type: none"> ●接続したアンプの音量が小さすぎ、本機の主音量が大きすぎる。（両方の機器の音量つまみが適切な音量になっていない。） ●スピーカーの設定が正しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●通常使用する音量にしたときに、本機の音量つまみが半分の位置（時計の12時の位置）より右にならないようにアンプの音量つまみを調整してください。 ●スピーカーの大きさや有無を確認し、正しく設定する。
片方のスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●接続コードまたはスピーカーコードがはずれている。 ●左右バランスの調整が正しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接続を確認して、はずれていたら接続し直す。 ●バランスを中央に戻す。
センタースピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカー設定ボタンでセンタースピーカーを“ナン（NONE）”にしている。 ●サラウンドをオフにしている。 ●入力切替のライン2を選んでSFCモードにしているが、センター用の入力端子にコードが接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接続したスピーカーに合わせて、ラージ（LARGE）またはスモール（SMALL）に設定する。 ●サラウンドオフ時は、センタースピーカーからは音が出ません。 ●センター用の入力も接続する。

症状	考えられる原因	処置
リアスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカー設定ボタンでリアスピーカーを“ナン(NONE)”にしている。 ●リアモードをラージ1台またはスモール1台にしている時に、リア用のアンプとの接続に、リアR(右)のみを使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●接続したスピーカーに合わせてスピーカー設定をし直す。 ●片方のみの出力端子を使う場合はL(左)を使って接続する。
サブウーファーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーカー設定ボタンでサブウーファーを“ナン(NONE)”にしている。 ●ドルビーサラウンド AC-3 動作時にサブウーファーをモード1にしていたかつ、LFEモードを“OFF”にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●モード1、モード2またはユーズに設定する。 ●LFEモードボタンで、LFEモードを+10dBまたは0dBにする。
リモコンで操作できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●本体と距離がありすぎる、または角度が悪い。 ●本体との間に障害物がある。 ●電池が切れている。 ●蛍光灯がリモコン受光部の近くにある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前面のリモコン受光部の距離が7m以内、角度が左右に30°以内で操作する。 ●リモコンの操作場所をずらすか、障害物を取り除く。 ●新しい電池に変える。 ●蛍光灯をリモコン受光部から離す。

- テレビを近くに設置した場合に、映像の乱れが生じることがあります。テレビで室内アンテナをご使用の場合に起こりやすく、このようなときは屋外アンテナを使用するかテレビを離して設置してください。
- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このような時は電源スイッチをオン/オフするか、電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。

アフターサービス

■保証書（別に添付してあります。）



保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。

●保証期間はご購入日から1年間です。

■補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

■アフターサービスなどについてわからないとき

本機に関するご質問、ご相談はお客様相談センターまたは最寄りのパイオニアインフォメーションセンター（IC）をご利用ください。所在地、電話番号は付属の「サービス窓口・ご相談窓口」をご覧ください。



■修理を依頼するとき

もう一度取扱説明書をよく読んでください。確認した後なお異常のあるときは、まず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

●保証期間中は

万一、故障が生じたときは保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理致します。お近くのパイオニアサービスステーションまたはお求めの販売店にご連絡ください。保証書の規定にしたがって、修理いたします。

連絡していただきたい内容

- ご住所、お名前、電話番号
- 製品名、ご購入日、型番（SP-D07）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

●保証期間が過ぎているときは

最寄りのパイオニアサービスステーションまたはお求めの販売店にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理致します。

お客様メモ...

- おぼえのため記入されますと、便利です。

ご購入店名	住所	お近くの ご相談窓口	住所
	電話番号		電話番号
ご購入年月日	年 月 日	型 番	この機種はSP-D07です。

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめします。こんな症状はありませんか

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

製品のお手入れについて

通常は、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭きとり、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。

お手入れの際は、差し込みプラグをコンセントから抜いて行ってください。



この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。